

令和3年度第2回 香南市地域公共交通会議
会議録概要

日 時：令和3年10月26日（火）14時00分～15時30分

場 所：香南市役所本庁3階 304・305・306 会議室

委 員：田内会長、坂本委員、今西委員、中村委員、山本委員、松山委員、金谷委員、
横山委員、吉田副会長、山本委員、出海委員、土居委員、長谷川委員、山中委員、
菅原委員（林委員代理）、明神委員（宅間委員代理）、山下委員、都築委員

1 開 会

事務局より委員20名のうち19名が出席しているため、香南市地域公共交通会議設置条例に基づき会議が成立することを報告。

2 議事

（1）各種調査結果の報告について

事務局より資料1の各種調査結果について説明。以下意見交換。

（委 員） アンケート調査について、調査票では属性を設定しているため、今後地区や年齢層別などクロス集計および分析結果をみていきたい。

（事務局） クロス集計結果について後日示したい。

（委 員） 市営バスについて利用者数について教えていただきたい。

（事務局） 年間約3万6千人の利用である。令和2年度では新型コロナウイルスの影響で約3万人になっている状況である。実人数は正確に把握していないが、400～500名程度と考えている。

（委 員） 私はタクシー事業者であるので何かお役に立てると良いと考えている。例えば、バスでは都合の悪い場所をタクシーで支援するなど協力できるのであれば今後検討する必要があると考えている。

また、公共交通についてどのくらいの費用を市が負担しているか。

（委員長） 市営バスの運行について、交付税という国から出る措置がある。スクールバスについては1台あたり500万円の措置がある。スクールバスでない市営バスは特別交付税になり負担する赤字部分の80%が特別交付税の対象となっている。

（委 員） 公共交通を考えた時に、一人あたりどのくらいの費用が出ているのか。車両1台あたりどのくらいの費用がかかっているか次回可能であれば教えていただければと思う。

（委員長） 市営バスにかかる全体の経費と利用者から次回示したい。

（委 員） 市営バスの受託事業者である。現行の運行方式について旧夜須町営バスの方式を採用している。スクールバスと一般運行のバスがある。1つの車両で2つの役割を果たしている。朝の登校と夕方の迎えでスクール対応し、それ以外の時間帯で一般のお客様の用途に合わせて運行している。他市町ではスクールバスと一般運行バスを分けて対応しているところが多く、また、旧香我美町の運行方式もこれに当たり、この方式になると経費も今以上にかかると思われる。現在7台で運行しているが、スクールバ

スと一般運行の混乗は6台である。一般のみ運行しているものが1台となっている。その中で「もっと便数増やして欲しい」などの要望があるが、一方で、運行に関して法律的なものもあり、「2日間でドライバーは9時間以上ハンドルを握ってはいけない」、「1週間に65時間以内の勤務でないといけない」等がある。その中でスクールバスと一般運行の2つ役割を果たしているため、十分な要望に沿って対応できるかという厳しい状況である。

しかし、費用対効果でみると効果はあったのではないかと考える。スクールバスと一般運行を分けるとかなりの台数が必要になるため、より経費がかかることが想定される。よく先進地を視察されるが、香南市が先進地であると考えます。

令和2年に市営バス運行の改定を行った。これは買物弱者など地域の要望から事務局である地域支援課をはじめ、専門家の方々と協議し対応したところである。これが香南市営バスの現状である。これをまず認識いただいた上で協議されてはどうかと考える。

(委員長) まず皆様に状況を認識いただければと思う。あくまでも香南市地域公共交通計画は市営バスの運行のみを考えるのではなく、市営バスの役割、タクシー事業者の役割、福祉事業者の役割など今後考えることが必要であり、香南市の移動手段の最適化により香南市の公共交通はこうあるべきだということを作っていきたい。そのために今回アンケート調査等も実施しているところで、現状を認識していただき、次回以降今後の公共交通において皆様のご意見を承りたい。

(委員) 資料7ページについて、市営バスの利用者の頻度について週5日以上利用されている方が13.7%、週2日以上が44.5%となっている。これはスクール利用者も入っているか。

(事務局) こちらはスクール利用者も入っている数値となっている。

(委員) スクール利用者を分けた際、一般の利用者がどのくらいの頻度で利用されているか興味がある。おそらく利用している人数は少ないが頻繁にされている状況がみえると考える。その点の数字を知りたい。

(委員長) クロス集計等の詳しい調査結果については後日委員の皆様にご提示させていただく。

(2) 本市公共交通の課題及び今後の方向性について

事務局より資料1の課題及び今後の方向性について説明。以下意見交換。

(委員) 情報発信を不足しているというご意見があった。私も先日嶺北地域を訪れて話を聞く機会があった。嶺北地域では、バス路線を別会社にしたことで、地域のお年寄りにとっては路線が変わったことになかなか理解してもらえない状況であった。「こうやったら高知に行ける」など地道に案内をしているとのことである。香南市の市営バスは高知県内にとっても素晴らしい仕組みであるため、乗って知ってもらうことが重要だと考えるため、情報発信をしっかり取り組んでいただきたい。公共交通の利用について、免許返納になってから知るのではなく、免許返納になる前から知ることによって免許返納返納しても安心だなどと思ってもらえることが大切である。

(委員長) これから社会の仕組みでIT活用やスマホにより情報が簡単に入手できるなどそのような仕組みも必要だと思う。一方で、その仕組みを高齢者が使える状況にしていくこと、様々な分野でいえることだが、情報発信だけでなく利用できるような学習を市として考えなければならない。システムを作っても利用できないということにならないよう情報発信を検討していきたい。

- (委員) バス停の待合場所の整備について、現実的に全てのバス停に対応することはできないと思う。バス待合所の整備について予算はとれるのか。
- (委員長) 市営バスに限った回答になるが、全てのところは難しいと考える。しかし、これから先どのような路線にしていくのか検討するところであるが、拠点となる場所については待合となる環境の整備を進めていきたいと考えている。
- (委員) 公共交通の方向性について、「のいち駅の交通結節点の強化」を書かれている。高知東部交通バスは大型バスということもあり、のいち駅に入れられない状況である。この強化について、どこまでの意図で強化を考えているか。
- (事務局) のいち駅の乗入れについては課題になっている。現時点では道路の状況等により難しいと言われているが、これまで検証を行っているわけではない状況である。現状、高知東部交通バスのバス停は四国銀行前であり、利用者にとって待合空間の環境は良くない状況である。今後、高知東部交通バスものいち駅で乗り入れできるか検証・検討していきたいと考えている。
- (委員) 市民のニーズや課題と方向性について、現在抽象的なため内容が薄く包含されていると思うが、課題の一覧に「外国人対応」が記載されている。アンケートの自由回答にそのような意見が含まれている。また、乗務員に対する不満の回答が多く見られる。逆に、乗務員を褒める意見もある。このような内容もニーズや課題に記載しても良いのではないかと考える。
- (事務局) 外国人対応について、自由意見にもあり、また、市内に住む外国人が車を持たず自転車を使うことが多いと聞いている。いざ公共交通を利用される場合、見方が分からないなどの意見もあるため、時刻表の掲載などできる範囲で対応していきたい。
乗務員のご意見については、常日頃改善できるように進めていきたい。
- (委員) 市営バスについて、1カ月に1回研修を行っている。利用者さまからのクレームもいただくことはある。しかし、一方的なご意見等もあるのではないかと考えており、乗務員からも一般のお客様に対して申し上げたいこともある。今後より良くしていきたい。
- (委員) 以前、自転車活用計画の策定に参加させていただいた。電動のレンタサイクル等の充実できれば市内の行き来がしやすくなると思う。この計画で関連できるところは関連させていただきたい。
- (事務局) 関連計画との連携は必要と考えている。のいち駅からレンタサイクルを利用してのいち動物公園へ行く人も一定数いる。また、他市町では市営バスに自転車を乗せられる取組もされている。観光分野とも連携しながら本計画に反映していきたい。
- (委員長) 拠点となるのいち駅と夜須駅にレンタサイクルの整備を自転車活用計画で進めており、公共交通としてどのように絡めていくか検討していきたい。
- (委員長) 今回、アンケート等の詳細調査をしていないため、今度の会議までにクロス集計等をお送りさせていただく。具体的な取組について今後の議論していきたい。

3 その他

事務局よりスケジュールについて説明。

(委員長) 現在本会議が全4回を予定しているが、全5回に増えたとしても3月末までにできるスケジュールで進めていただきたい。委員とご協議ができる場をしっかりと設けていきたい。

(委員) 市営バス運行時刻表について、医大病院や医療センターへの経路をお願いし、25Pに記載いただいている。同様に、空港へ行く乗合タクシーの利用方法についても記載いただきたい。

また、市営バスについて、シルバーカーを乗せて移動することはできないか。新型コロナウイルスが治まったら今度乗ってみようかという話にもなっている。住民も市営バスに乗ってみる機会を作ると良いと考える。バスの乗り方など今まで知らなかった方は公共交通機関に乗ることのハードルが下がるのではないかと思う。

(事務局) 空港への乗合タクシーについては、掲載の検討をしていたが本運行時刻表では省略した。次回は掲載する方向で検討したい。

シルバーカーについて、ベビーカーも同じであるが、ご自身で乗せていただき邪魔にならなければ問題ないが、市営バスは段差があるので利用しづらいと聞いている。介助をしてはどうかという意見もあるが、のいち駅など待ち時間のある拠点では可能であるが、途中で降りる時に市営バスは定時定路線で運行の安全上対応できない点が課題になっている。

また、みなさんで一緒にお出かけするということについて、市内でも3団体程度企画していたが新型コロナウイルスで実施できていない状況である。コロナが落ち着いたら改めて高齢者クラブなどに提案していきたいと考える。

(委員) 高知東部交通について、シルバーカーが乗せられるのでぜひご利用いただきたい。

(委員) 市営バス時刻運行表について知らない人が多いと思う。免許返納時や80歳になる人を対象に毎年敬老会等で配布するなどできると良い。住民として、まちづくりの活動として協力することができる。

(委員長) 市営バスの利用に繋がり、また、市民の移動手段の確保になるような取組として進めていただきたい。

(委員) 高知東部交通に質問であるが、シルバーカーの乗入れについてご自身で乗り入れは難しいと思われる。その際の運転手の介助や、バス車両の中に置くスペースを作るなどできないか。

(委員) シルバーカーの乗入れ対応は、実際に運転手が手伝っている。ただし車両内に置くスペースはないので、お客様にしっかりと固定していただくようお願いしている。

(委員長) 高齢者の買物についても、行きは良いが、帰りは荷物があるのでバス利用が難しいということもある。タクシー事業者や福祉事業者とどのような連携ができるかを示すことで、本計画が意味合いを持つ。より具体的な議論できるよう今後進めていきたい。

4 閉会

以上